

R1 SG 台湾 FW

11/8 (金)

皆さん、東日本大震災の折、各所から援助の手を差し伸べてもらいましたが、世界で最も多くの寄付金をくれたところを知っていますか？それは台湾です。

本日から、SGH の様々な活動でお世話になっている、希望郷いわて文化大使村尾隆介さんプレゼンツの特別な3日間が始まります。テーマは「謝謝台湾」。

人は複数のアイデンティティを一度に羽織って生きています。〇〇家の一員である自分、盛岡一高の生徒である自分、盛岡市民である自分、岩手県民である自分、日本人である自分、モンゴロイドである自分、そして地球市民である自分。この3日間は、岩手県民である自分達が、地球市民の同朋として手を差し伸べてくれた台湾の方々に、感謝を伝えることがテーマなのです。

午前中は村尾さんが懇意にしている Hugo さんがお勤めの、レオバーネット社を訪問。ちなみに、東日本大震災が起きた時、Hugo さんが中田英寿さんをはじめとする世界中のたくさんの方々に呼びかけてくれたからこそ、あれだけの寄付金が集まったそうです。ありがとう、Hugo！

レオバーネット社はフランスに本社があり、世界中に支社を抱える業界最大手の広告代理店の一つで、台湾でのシェアは1位。超一流企業の方とお話ができる機会を設けてくださるとは、やはり村尾さん恐るべし。

はじめに、台湾経済界の女性ドン、マーガレット社長から歓待を受けました。ちなみに台湾は女性の管理職が多いことで有名です。その通り名に負けず、とてもパワフルで前向きな、カッコいい女性でした。

その後、Hugo さんから広告代理店の仕事内容や会社の歴史、そして仕事における哲学についてお話いただきました。

Hugo さんが手がけた CM を見せていただきながら、一本の短い映像に込められたレオバーネット社伝統の進取の気性や、クライアントとの共同作業の徹底ぶりに触れ、第一線で活躍する職業人の世界観を垣間見ることができました。

最後は Hugo に、働き改革を体現する、とってもお洒落でクールなオフィスを案内してもらいました。

デスクは決まっておらず、退社する際に自分のロッカーに全てのものをしまいます。翌日の出勤時は、フロア中心に置かれた普通のデスクで企画書を打とう

か、窓際のカウンター席で窓外を眺めながらアイデアを練ろうか、ソファである人とコーヒーを飲みながら会議しようか、自分の計画に応じて形も変えられます。こんなところで仕事ができたらなぁと感じさせてくれる、素敵な空間でした。

レオバーネット台湾はグローバル企業ですが、日本人の従業員は未だ不在です。時代の進展に対応するために必要となる、グローバル企業の基礎体力を構成するのは「多様性」。初の日本人の同僚を迎えるべく、Hugo さんからは「君たちからインターンの申し出があれば尽力する」と熱いメッセージをいただきました。

午後は「慈済」への訪問です。花蓮で訪問する慈済大学附属高級中学もこの慈善団体がつくった学校です。慈済は東日本大震災のときに、津波で被災された方々の一人一人に直接声をかけながら手渡しで義援金をくださった団体であります。今回は、その時のお礼を岩手県代表として私たちが気持ちを伝えるという思いで訪問しました。

今回、訪問させていただいたところは、団体の理念のひとつでもある「地球の環境を守る」ということで行っているごみの分別を行う施設でした。ここで働いている方々は全てボランティアで、一切対価を得るころなく働いていました。行われている作業は、ビニールの分別、ペットボトルのキャップ外し、紙を白黒のものと、カラーのものと分ける作業などでした。ビニールを何種類にも細かく分別することで、ほとんどのものがリサイクルできるようになるということでした。

た。リサイクルできなければゴミとなり、焼却したり、地中に埋設させられ、結局地球を痛めつけることになるというお話でした。驚いたことにすべての作業が手作業で行われていたのです。私たちも紙の分別を体験しました。単調な作業を通じて、生徒達はボランティアの方々とコミュニケーションをとることができ、良い時間となりました。

日本では手作業での分別は限界があり、きちんと分別できないものは一般ゴミとして焼却されています。それでは地球温暖化にもつながり、地球がかわいそうだというのが慈済でボランティアを行っている方々の考えでした。ボランティアをなさっている方はおおむね高齢の方が多かったですが、人のため、地球のためになっているということが、彼らの生きがいになっているようにも感じました。

そのあとはホールで震災の時の慈済の東北支援の様子をうつした映像を見せてもらいました。説明をいただいた方も、震災の時に日本に来てくださった方で、当時の悲惨な様子を知っているだけに、この映像を見せるかどうか本当に迷ったと、涙声で語ってくれました。

最後に我々を代表して、馬場桃香さんがお礼を述べ記念品と折鶴を手渡し

した。この折鶴は、沿岸で被災したおばあちゃんたちが感謝の気持ちを込めて折った鶴を、我々に託してくれたものです。

最後に見学したのは「マクドナルハウス」です。マクドナルハウスとは、台北にあるマクドナルド社が社会貢献の一環として、小児ガンなどの病気の治療の際、地方から治療に来られる親子が一時的に無料で滞在できる施設です。ホール、キッチンルーム、宿泊部屋があり、それらすべてで病気の子供が楽しく過ごせるよう工夫がなされていました。マクドナルド社が商取引で関係ある企業からも支援をもらい、この施設を運営しているということでした。特に印象に残ったのは、サンリオ社の提供エリアで、部屋一面ハローキティに囲まれた宿泊室があり、女の子に一番人気があるということでした。

最後の質問コーナーでは中田深采さんが英語で子供の遊び場に関する質問し、ディスカッションが深まりました。

全ての研修先の訪問が終わった後に、村尾さんから本日の研修の意図を総括していただきました。民間企業、慈善団体、民間の社会貢献活動、立場は違って

いてもそれぞれの立場で社会を良くしていこうという点で、本日訪れた研修先は同じ方向を見ているということを伝えていただきました。最後に生徒から今日一日の感想を述べたのですが、「台湾の人の社会を良くしていこうという意識の高さに驚いた」というのがほとんどの生徒の感想でした。自分、日本と、台湾を比較して、多くのことを考えられた、充実した1日になりました。

地下鉄でホテルに移動した後、ホテル近くの安寧夜市でそれぞれ夕食を楽しみました。すでにタピオカミルクティ3杯目という強者もおります。明日は台中に移動です。



